ISSN 0285-6352

日本語と日本文学

2015. 6.17
本学 筑大図

第 57 号

元禄歌舞伎作品における勝者と敗者の人物像
——「悪人」の人物造形を中心に—— ……矢野　輝明（　1）

明治30年代における三土忠造『中等国文典』の歴史的位置
——教材上の工夫および文法論上の知見から—— …勘米良祐太（左　1）

動詞の共起傾向に基づく様態副詞の分類試案……宮城　　信（左 15）

自然言語生態学
——自然言語の、生命個体発生過程との相即的相互形成過程　II—— …岡崎　敏雄（左 27）

平成26年11月

筑波大学日本語日本文学会

投稿規定

一、投稿論文は四百字詰め原稿用紙四十枚（一万六千字）程度。ワープロ原稿の場合は電子データを添えて御投稿下さい（原稿と電子データは原則としてお返しいたしません）。

一、原稿〆切は毎年二度、二月末日および八月末日です。

一、本誌の論文は、附属図書館の電子図書館システムに登録され、全文データベースとして蓄積・利用されます。

一、原稿送り先

〒305-8571 茨城県つくば市天王台一――一

筑波大学文芸・言語専攻

『日本語と日本文学』編集委員会

投稿案内

本誌では会員の皆様の御投稿をお待ちしております。

学会機関誌はいうまでもなく、学外のOB、学内の教員および学生の三者が一体となって、当該学問に貢献しうる学問的成果を公表してゆく媒体として存在するものであります。従いまして、本誌の一層の充実は、この三者の構成員の熱意に負うところが多大であります。本誌の価値を高め発展させてゆくためには、これら構成員から質の高い論文の投稿を仰がねばなりません。構成員、とりわけ学外のOBの皆様の積極的な御協力を願う次第です。

投稿は「投稿規定」により、また投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。なお、抜刷の作製料については投稿者の御負担とさせていただいております。御了承下さい。

編集後記

おくればせながら第五七号をお届けいたします。本誌も東日本大震災の余波で刊行が遅延し、会員の皆様にはご心配をおかけいたしておりますが、今年度内になんとか旧に復したく努めてまいります。とは申せ、人文系の学問をとりまく環境はさらに厳しさをまし、ことに文学研究などは競合・競争の大合唱の前にただ恐々するしかないのも実状です。さりながら、そうした波濤のなかでも若手の研究者たちは粛々と学究の机に向かわれています。その姿にあたかも先の大戦のさなかに生きた学徒を想像いたします。世がいかにあるとも日々素を行うのみ、それを彼らにみることが、まさに「後生畏るべし」であります。新進の論考三編と前号につづく論考一編をあわせて掲載いたしました。

今号から、新保邦寛先生にかわりまして、私が編集委員長を務めることになりました。本誌の創刊期にこの雑誌を仰ぎみていた大学生がこうした職責を果たすとは、まことに時間の移ろいを痛感いたします。

（石塚　修）

平成二十六年十一月三〇日印刷
平成二十六年十一月三〇日発行
〒305-8571 茨城県つくば市天王台一――一――一
筑波大学文芸・言語専攻
編集・発行　筑波大学日本語日本文学会
代表者　大倉　浩
印刷所　第一印刷株式会社
☎〇二八二（三一）一五五一